

三再言內

卷四

十六

雷銃操法

三

千八百六十七年第二月

英國開彫

英語  
ライフル

蘭語  
ミニニー  
ゲウホール

# 雷銃操法

福澤氏藏版

雷銃操法卷之三

題言

雷銃操法二冊既ニ世ニ行ハレ今コノ第三巻ヲ  
以テ全部ノ譯ヲ卒ル但シ第二巻ノ題言ニモ云  
ヘル如ク首巻刊行ノ後ハ千八百六十七年式ノ  
新版ヲ譯シタルガ故ニ其目録ニ相齟齬セル所  
ノリ且又第三巻中ノ原書ニ「アトルンス」及ヒ  
「アルムス」トテ諸隊ヨリ官ヘ奉ル公報ノ式アリ  
コレヲ直譯スルイ甚容易ナレバ唯其文ヲ譯ス  
ルノミニテ更ニ英國ノ軍制ヲ知ラス其官名職

務等ヲ詳ニセザレバ事ノ實際ヲ解ス可ラス逐  
一コレニ註解ヲ加ヘテ說辨センカ如キハ譯者  
數月ノ勞ヲ費スニ非ラザレバ就ハズ畢竟コレ  
ヲ省クモ雷銃操法ノ事實ニ損ナケレバ姑ク略  
シテ唯操法ノ急需ニ應スルノミ

明治二年  
己初冬

福澤諭吉 誌

雷銃操法卷之三目錄

第五篇之下

第二条遠近見斗ヒノ試験

第六篇

測遠器用法ノ教

第七篇

放發ノ中リニ褒美ヲ與ル事

第八篇

雷銃ノ的場ヲ選ヒ之ヲ鑒定スル事

第九篇

小銃試験ノ事

目録終

雷銃操法卷之三

第五編之下

第二條遠近見斗ヒノ試験

左ノ条々ニ記ルス遠近見斗ヒノ試験ハ初學ノ生兵モ中隊ノ士官モ大隊ノ練兵モ共ニ行フ可キモノナリ元來コノ業ハ雷銃ノ實用ニ欠ク可ラザルモノナレバコレヲ試験シテ諸中隊ノ其業ニ上達スルト否トヲ見シガ為メナリ  
二此業ニ於テ遠近ヲ正シク測量スルニハス



タチナメートルト云フ測遠畠ヲ用ニ其用法ハ  
下ノ第十一葉ニ詳ナリ若シコノ測遠畠ナクバ  
試験ノ場所ニ用ニ可キ長サノ繩軟又ハ鎖ニテ  
モヨシ其端ヨリ五ヤード<sup>メ</sup>レバ分ルヤウナル目印<sup>シルレ</sup>ナ付ケ場所ヲ見立テ、  
此繩ヲ張ル可シ但シ試験ノ度ヒ毎ニ場所ノ異  
ナルヲ良トス

三 三百ヤード以内ノ遠近ヲ試ルニハ其標的トシテ一二名ノ人ヲ立タシメ三百ヤードヨリ遠キ處ヲ試ルニハ八人乃至十人<sup>四</sup>ヲ二列ニ

シテ立タシム可シ測遠畠ヲ用ヒズシテ繩軟鎖ヲ代用スル所ハ標的ノ人ハ必ス繩ノ端カ又ハ中途ニテモ其筋ニ沿テ立タシム可キナリ  
四 指揮官ハ五ヤードツ、ニ分タル目印ノ内ノ一處ニ來リ稽古人ヲ止メテ遠近ノ見込ヲ問ヒ五ヤードヲ歩スル間ニ其返答ヲ為サレ  
五 繩軟又ハ鎖ヲ用ル所其繩ヲ平ニ地面ヘ置ク可キホドノ平地ナレバ左ニ記ルス法ニ従テ二組モ三組モ同時ニ遠近見斗ヒノ試験ヲ行フ

可シスノ如クスレハ時刻ヲ費スモ少ナク且  
其目當ニシテ遠近ヲ推量スルノ患ナキニヘ試  
験ノタメニ最モ妙ナリ

六 教師ハ稽古人ノ内ノ一組(譬へハ第三番組)ヘ無級士官指圖役一名ヲ差添ヘテ標的トナル  
可キ場所ヘ送リ残リノ組々テシテ此標的ノ遠  
近ヲ積ラシム標的ノ人モ亦顧テ其本組ノ方へ  
向ヒ互ニ遠近ノ見斗ヒテ行フナリ標的ノ場所  
ニ居ル差圖役モ組々稽古人ノ場所ニ居ル差圖  
役モ當日試験ノ指揮官ヨリ覺ヘノ書付ヲ受取

リコノ書付ヲ見レハ某ノ標的ハ繩ノ端ヨリ幾  
ヤールドノ處ニ立チ某ノ稽古人ハ幾ヤールド  
ノ處ニ在リト一々詳ニ其實ノ遠近ヲ知ル可シ  
但レ一條ノ繩ニ沿テ幾組モ人ノ立ツイナレハ  
見通シヲ妨グザルヤウ心ヲ用ウ可シ

七 測遠器ノ用意モナク其土地ハ山阪多クレ  
テ繩ヲ用ウ可ラザル代ハ三角形ノ法ニ由テ遠  
近ヲ測量セザル可ラズ

八 稽古人ノ返答ハ一々コレヲ帳面ニ記ス此  
帳面ハ差圖役又ハ小頭(サムライ)ノ預リニテ立合人士官

一人アリ試験ノ間ハ堅ク無言タル可ク且其遠  
道ヲ積ルキ互ニ相談スルヲ禁ス見込ミ定レハ  
低聲ニテコレヲ述ヘ他人ノ耳ニ入ラサルヤウ  
用心ス可シ

九 指揮官ハ稽古人ヲ召連レ遠近ヲ見ル可キ  
場所ニ至リ測遠器或ハ繩ノ右ノ方ヘ寄ル一十  
歩ニシテ止リ標的ノ方ヘ向ハシメ帳面ヲ所持  
セル無級士官ヲハ組々ノ列ヨリ前ニ進ム一三  
歩ニシテ右ノ方ヘ立タシム稽古人ノ見込ミテ  
述ヘテ帳面ニ記ルスキ他人ノ耳ニ入ルヲ防ク

タメナリ斯ク場所ヲ定メ無級士官先ヅ自カラ  
見込ミテ述ヘテ帳面ニ記ルシ然ル後ニ各、其組  
ノ稽古人ヲ一人づゝ呼出タシテ其標的ヲ距ル  
遠近ノ見込ミテ云ハシメコレテ帳面ニ記ス  
十 組々ノ稽古人ヲシテ各、其見込ミテ返答セ  
レメコレヲ帳面ニ記ルシ終レベ念ノタメ一度  
ヒ讀ミ聞カセテ書損アレバコレテ帳面ノ上ニ記  
ミ聞カセ終テ指揮官ハ大聲ニテ實ノ遠近ヲ唱  
ヘコレヲ帳面ノ上ニ記ルシ稽古人ノ巧拙ニ由  
テ多少ニ得ナル点ヲハ各其返答ノ傍ニ記シテ

即席ニ其本人ヘ示ス但シ實ノ遠近ヲ告ケシ後  
ハ見込ミノ返答ヲ要スルヲ許サス

十一 一度ノ試験ヲ行フ毎ニ其箇所ニ場所ヲ  
設ケ一箇所ニテ業ヲ終レハ又他所ニ移シ何等  
ノ事アルモ稽古人ヲシテ實ノ遠近ヲ知ル可キ  
寺城リヲ得セシム可ラズ

十二 一度ノ試験ヲ終レハ稽古人ノ得タル点  
數ヲ計ヘテ其組々ヘ讀ミ聞カセ其点ノ總數ヲ  
合シテ實ト爲シ稽古人ノ數ヲ<sup>キス</sup>法ニシテ除スル  
氏ハ組々平均ノ巧拙ヲ知ル可シ点數ヲ記シタ

ル帳面ヘハ當日帳面ヲ預リタル無級士官ノ名  
ヲ調印シ試験ヲ監督スル士官コレニ裏印シテ  
相違ナキ趣ヲ證ス但シコノ調印裏印ノ手數ハ  
必ス試験ノ場所ニテ行フ可シ斯<sup>ク</sup>帳面ノ書記  
終リテ師範役ハ其帳面ニ点ノ總數ヲ二様ニ記  
シタル處ノ一斤ヲ裂キ取り銃術稽古試験ノ公  
報ト名ワクル書面中ニコレヲ寫ス但シ此手數  
ハ屯所ヘ歸リシ後中隊教師ノ職掌ナリ  
十三 生兵ノ試験ナレハ帳面ニ調印スル者ハ  
其組ノ差団役ニシテコレニ裏印スル者ハ師範

役歎入ハ其副役ナリ

十四 帳面ノ文字ハ誤アルモ紙ヲ削テ字ヲ改

ルモ許サス必ス其傍ニ書入レ且試験ヲ監督ス  
ル士官自カテ其書入レノ文字ノ一字ヲ書シテ  
相違ナキ趣ヲ證ス若シコノ規則ヲ破テ書入ル  
ルモノアレバ其書入レハ無證據ノモノトス  
十五 第三等ノ稽古人ハ三百「ヤード」マテノ  
試験ヲ為シ第二等ハ六百「ヤード」第一等ハ九  
百「ヤード」マテヲ試ム

十七 諸組稽古人ノ返答ニ従ヒ點ヲ以テ其巧

拙ヲ分シテ左ノ如シ

第三等百「ヤード」

五「ヤード」ノ誤 三点

ヨリ三百「ヤード」

十「ヤード」ノ誤 二点

ヲ試ムモノ

十五「ヤード」ノ誤 一点

第一等三百「ヤード」ヨリ

二十「ヤード」ノ誤 二点

六百「ヤード」ヲ試ムモノ

三十「ヤード」ノ誤 一点

第一等六百「ヤード」ヨリ

四十「ヤード」ノ誤 二点

九百「ヤード」ヲ試ムモノ

四十一「ヤード」ノ誤 一点

十八 上等ノ稽古人ノ實ニ巧ナルヤ否ヲ試ム

タメ一等ニ等ノモノヲシテ下等ノ業ヲ為サシ

十八 上等ノ稽古人ノ實ニ巧ナルヤ否ヲ試ム

タメ一等ニ等ノモノヲシテ下等ノ業ヲ為サシ

ムルトアリ然ルキハ上等ノモノニテモ下等ノ遠近ヲ試ミ其点ヲ附ル1モ前章ノ割合ニ従テ

下等ノモノト同様ナリ

十九 試験ノ第一期ニ於テハ生兵其外ノ稽古人何レモ百「ヤールド」ヨリ三百「ヤールド」マデノ遠近ヲ見ル

二十 第一期ノ終ニ至レハ稽古人ノ得タル点數ヲ合シテ銃術稽古試験ノ公報中ニ記シ其多少ニ従テ階級ヲ分ツ即ナ十四点以上ヲ得タルモノハ第二等ト為シ十四点以下ナルモノハ第

三等ト為ス

二十一 第二期ニ於テハ稽古人ヲ二段ニ分シ即チ第二等第三等コレナリ

二十二 第二期ノ終ニ至レハ稽古人ノ得タル点數ヲ合シテ公報ノ書面中ニアル銘々ノ名前ノ上ニ記シテ二度目ノ階級ヲ分ツ即ナ第二等ノ稽古人ニテ十四点以上ヲ得タルモノハ第一等ニ線上ケ第三等ノ稽古人ニテ十四点以上ヲ得タルモノハ第二等ニ線上ク十四点以下ノモノハ登級スルヲ得ズ

二十三 第三期ニ於テハ稽古人ヲ三段ニ分ウ

即チ第一等第二等第三等コレナリ

二十四 第三期ノ終ニ至レハ稽古人ノ得タル  
点數ヲ合シテ各其等級ニ従ヒ本人ノ名前ノ上  
ニ記シ其点ノ多少ニ準シテ級ヲ分ツコレヨ 分  
級ノ終トス即チ第一等ニ在テ点數ノ最モ多キ  
モノヲ一大隊中ノ上級ト定ム

二十五 第一等ノ中ニ同点人モノニ三人アレ  
ハ第二期ノ試験ニ得タル点人多少ニ従テ其級  
ノ上下ヲ定ム第二期ノ点モ同様ナル氏ハ第一

期ノ試験ニ高点ヲ得タルモノナ上級ニ定ム

二十六 一大隊ノ内ニテ中隊ト中隊トヲ比較  
シテ速近見斗シノ巧拙ヲ定ルニハ第一期ノ試  
験ニ得タル平均ノ点數十二草ナシテ計ヘ第三期  
ノ終ニ等級ヲ分ツ氏第三等ノ者ハ百分ノ内ニ  
幾割第一等ノ者ハ百分ノ内ニ幾割トノ勘定ヲ  
為シテ平均ノ点數ノ多クシテ第一等ノ人數ノ  
多キモノナ以テ上席ノ中隊ト定ム但シ士官ノ  
試業モノノ中ニ加ハルナリ

二十七 大隊ノ士官モ中隊ノ稽古人ト共ニ遠

其姓名ヲ副大隊長ヘ達シ其褒美トシテ午後ノ  
人數改ニ欠席ヲ許シ或ハ他ニ出格ノ免許ヲ與  
ルトアリ

### 第六編

#### 測遠器用法ノ教

一 尺杖ノ頭ヲ三脚臺ノ上ニ置キ其端ヲ二脚  
臺ノ上ニ置テ器械ノ仕戩ヲ設ルト第一圖ノ如  
クス

二 此測遠器ハ普通ノ測量法ニ由テ造リシモ  
ノニテ形ノ同シキ三角ハ其邊線ノ割合モ亦同

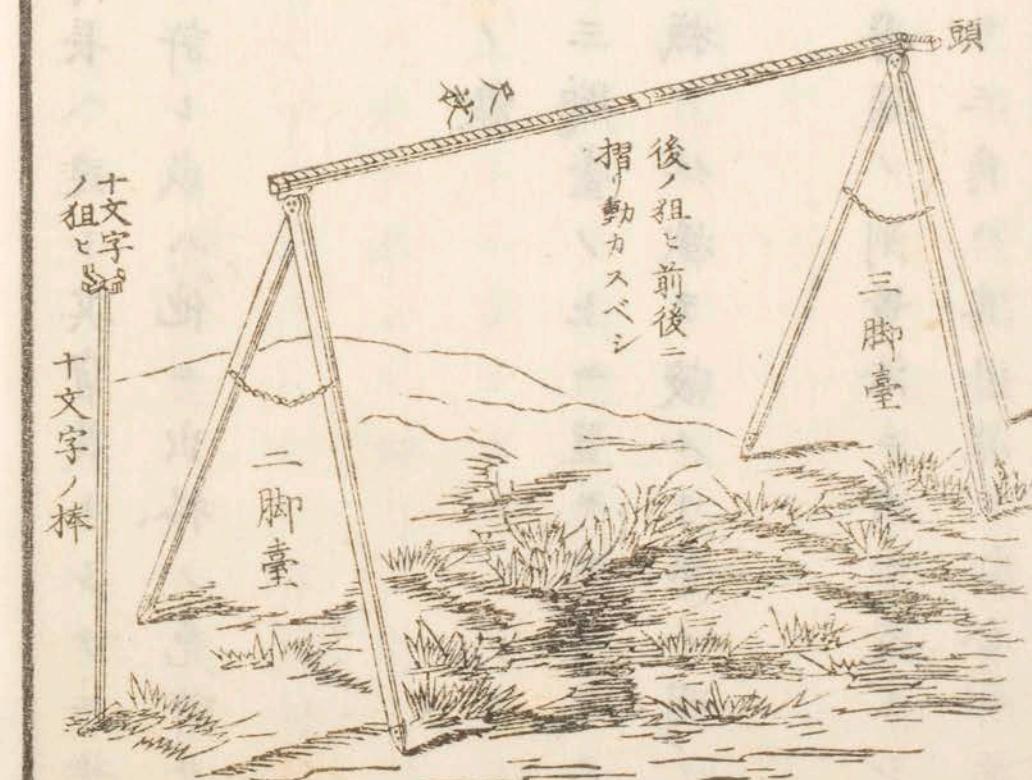
近見斗ヒノ下、稽古并ニ其試験ニ加ハリ点数ニ  
由テ上下ノ級ヲ定メコレヲ例年銃術試験ノ公  
報ニ記ス  
二十八 前条々ニ記シタル遠近見斗ヒノ試験  
ハ三期共ニ的打ノ試験ト同時ニ行フモノナレ  
此ノ業前ヲ益々上達セシメンガ為、中隊ノ司令  
官ハ不時ニ其組ノ者ヲ卒ヒテ野外ニ出テ遠近  
見斗ヒノ業ヲ為ヘトアリ或ハ又行軍調練ノ日  
ニ暫ラク止リテコノ業前ヲ為スモノアリコノ  
時ニ上級ノ点ヲ得タルモノハ屯所ヘ歸リシ後

第一圖測遠器

後ノ組と前後ニ  
摺り動カスベシ

真形二十四分

一ノ縮圖ナリ



シトノ理ニ基ウキタルモノナリ

三 人ヲ標的ニ立テ、其遠近ヲ測ルノ法左ノ  
如シ

第一 教師ハ第二図ニ示ス①ノ旗ヲ立て、  
コレヨリ標的ノ遠近ヲ測ル場所ト定ム

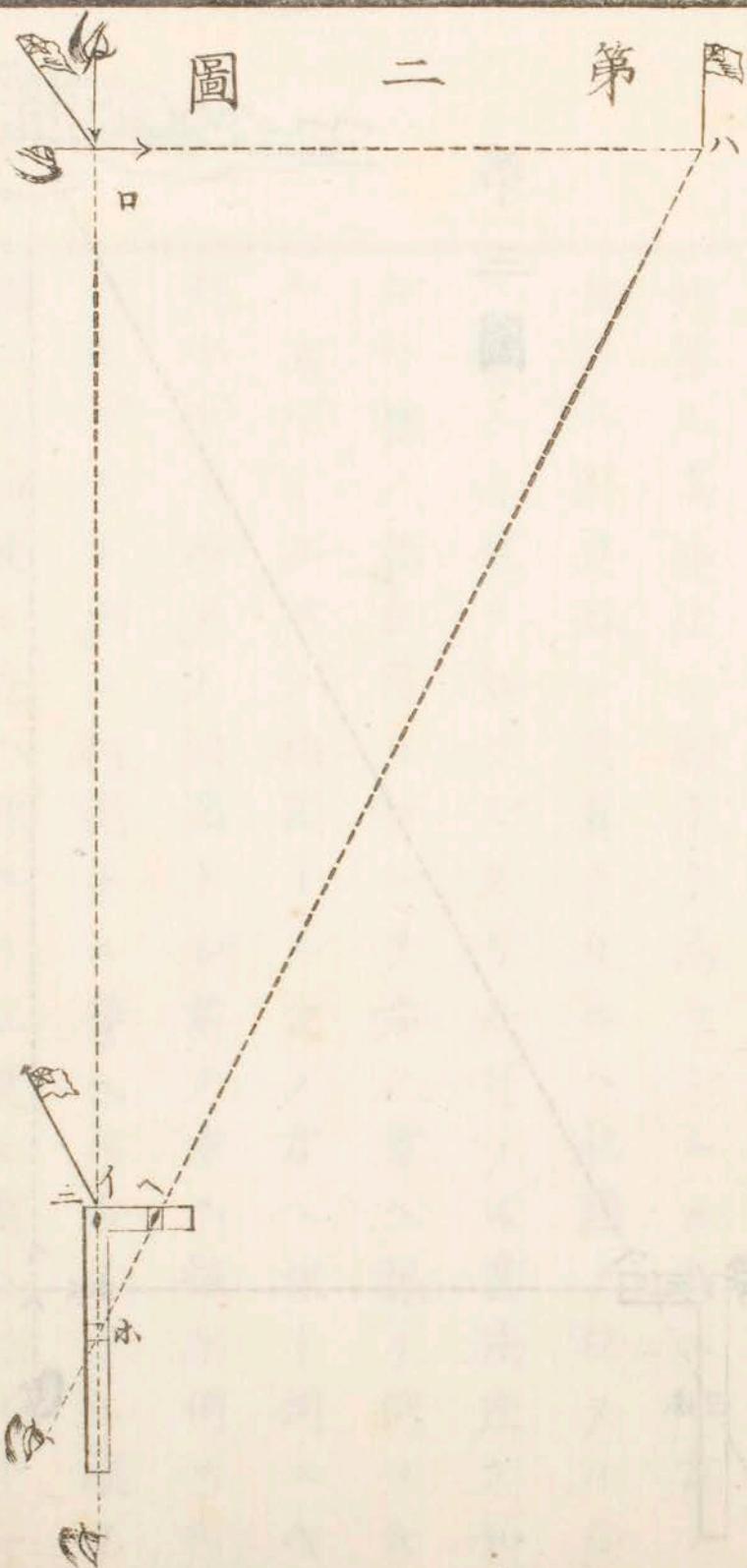
第二 無級士官(成ル可クバ差図役ヲ用ユ可  
シ)ハ教師ノ差図ニ従ヒ①ノ旗ヲ距ル1若干  
ヤードノ處ニ十文字ノ棒ヲ立て十文字ニ  
附タルニノ組ヒト①ノ旗トヲ見通シテ一直  
線ト為ス但シコノ棒ヲ立ルニ八棒ノ下ノ方

ニ横棒アルコヘ足ニテ此横棒ヲ踏有レハ地面ニ立テ大丈夫ナリ第二圖(口)ノ字ノ處ナリ第三十文字ノ棒ヨリ左ノ方ヘ鎖ヲ引キ四十ヤールドノ長サナ定メ十文字ノ粗ヒテ見通シテ第二圖(ハ)ノ旗ヲ建ツスノ如クシテ曲尺形ノ方角ヲ定メ十文字ノ棒ヲ抜テ其穴ニ旗ヲ立ルト(口)ノ如ク為シ(口)ノ旗ト(ハ)ノ旗トノ間ニ標的ノ人ヲ立タシム

第四測遠署ヲ置キ其前ノ粗ヒテ第二圖(二)ノ處ニ定メ後ノ方ニアル(口)ノ粗ヒノ切目ノ

底ヨリ(イ)口ノ旗ヲ見通シテ一直線ト為ス第五(ホ)ノ粗ヒテ後ニ引キ或ハ前ニ押シテ尺状ノ頭ニアル(ヘ)ノ粗ヒテ見通シ(ハ)ノ旗ト一直線ニナルマデコレヲ加減ス第六旗ノ遠近ヲ知ルニハ唯尺状ノ度ヲ見ルノミ即チ後ノ粗ヒノ處ニ現ハレタル数字ハ遠近ノ數ナリ

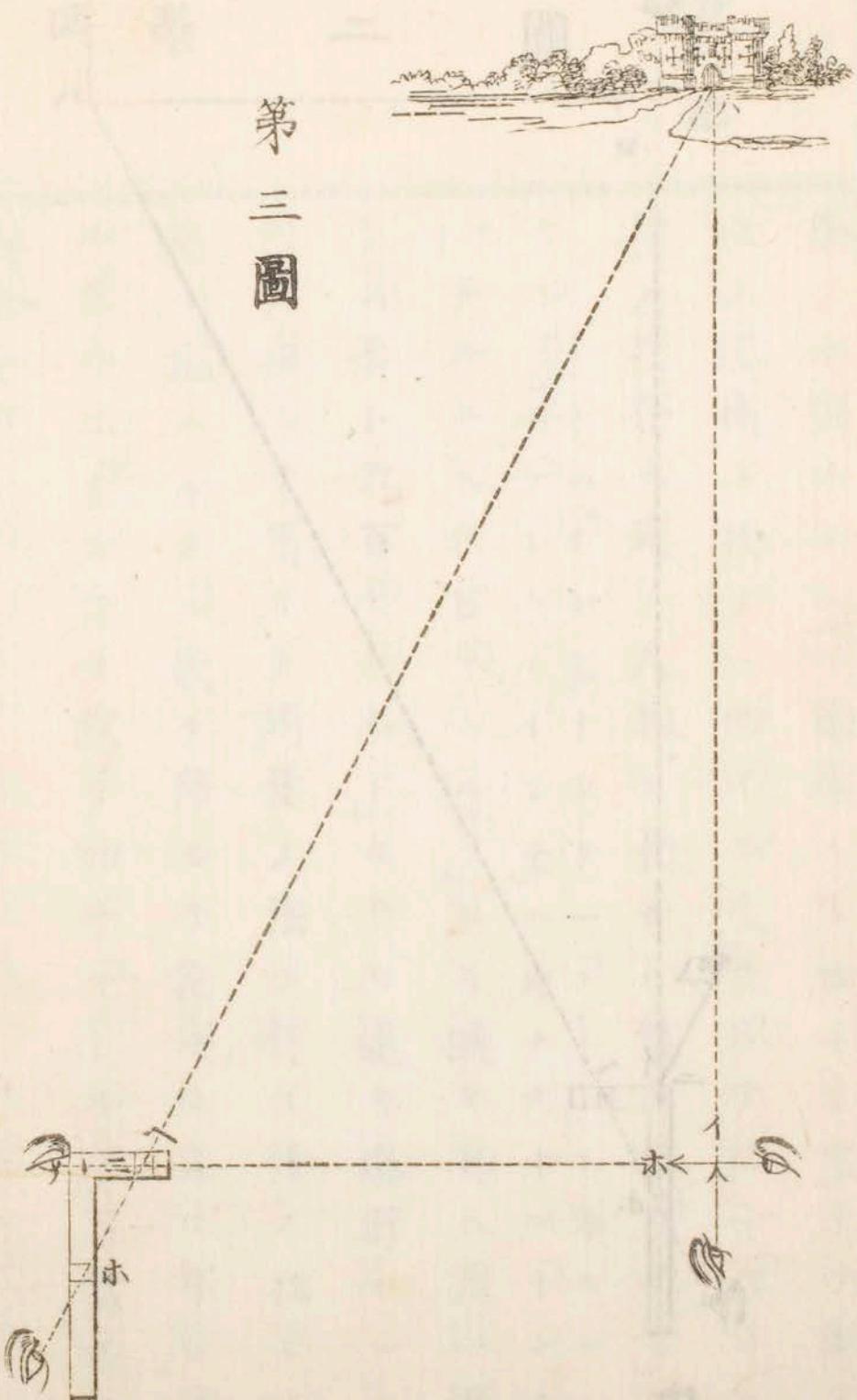
四尺状ノ頭ノ曲尺形ニナリタル處ニ内外二個ノ粗ヒアリ(ヘ)印ノ粗ヒニ内ノ一個ハ尺状ノ前ノ粗ヒニ印ノ粗ヒ離ル、トニ「インチ」ニシテ



第一二圖

外ノ一個ハコレヲ離ル、一四「イン左ナリ都テ  
コノ器械ニ於テハ四「イン左」以テ四十「ヤード」  
ドノ割合ニ定メ尺狀ノ長サハ僅ニ五「アート」ニ  
イレ左十ニ「イン左」以テ一「アート」ト為スユヘ  
ナナルユヘ六百「ヤード」ヨリ遠キ處へ用ユ可  
ラス若シ六百「ヤード」ヨリモ遠キ場所チレハ  
内ノ粗ヒヲ用ヒテ測量ノ法ヲ行ヒ後ノ粗ヒノ  
處ニ現ハレタル數ヲ陪シテ勘定ヲ立ツ可シ然  
ルキハニ「イン左」以テ四十「ヤード」ニ當ルノ  
割合ナリ

第三圖



五組々ノ稽古人ヲニ部ニ分テ双方ヨリ互ニ  
相望ミ其遠近ノ積リナ為サシムル氏ハ一方ノ  
組ニハ測遠器ノ用意ナキユヘ相図ヲ以テコレ  
ニ實ノ遠近ヲ知ラシメサル可ラズ其法左ノ如  
シ一種ノ旗ヲ用ヒコレヲ右ノ方へ振り倒ス氏  
ハ百ヤールドノ相図トシ左ノ方へ振り倒ス氏  
ハ十ヤールドノ相図トシ前ノ方へ振り倒ス氏  
ハ五ヤールドノ相図トス譬へハ右ノ方へ旗ヲ  
振ル1四度ヒ左へ振ル1五度ヒ前へ振ル1一  
度ヒナレバ即チ四百五十五ヤールドノ相圖ナ

六 家屋樹木等ヲ標的トシテ其遠近ノ積リヲ  
為スノ法ハ左ノ如レ但シコノ業ハ行軍調練ノ  
路ニテ取行フ欽又ハ例年ノ稽古時ヲ除キ臨時  
ニ取行フ可キモノナリ

第一 十文字ノ棒ヲ立ル 1 第三圖(イ)ノ如ク  
ナシ其ニツノ粗ヒヲ見通シテ直ニ家ノ方ニ  
向ヒハノ点ヲ見テ十文字ト家トノ間ノ遠近  
ヲ問フ

第二 十文字ノ棒ヨリ左ノ方四十ヤールド

ノ處ニ測遠置ヲ置キ十文字ノ横ノ粗ヒヲ見  
通シテ尺杖ノ頭ニト正シク相對シニホノ方  
角ヲ定ム

第三 尺杖ノ後ノ粗ヒホヲ後ニ引キ或ハ前  
ニ押シテ前ノ粗ヒノヘヲ見通シハノ點ト一  
直線ニナルマヂコレヲ加減ス

第四 右ノ手數終テ尺杖ヲ一見シ其遠近ヲ  
知ル可シ

七 測遠置ヲ置ク場所ト其標的トスル場所ト  
高低相異ナルモ置械ノ用法ニ妨ケナキカ故ニ

之ナ用レハ遠近見斗ヒノ業ニ地形ヲ選フニ及  
ハス。測速器ハ常ニ乾ハカシ置ク可シコレヲ用  
ヒテ雨露ニ濡フイアラハ必スヨク拭テ箱ニ納  
ム可シ斯ノ如ク手持テヨクアレハ多年ノ間損  
傷ノ患ナレ。

## 第七篇

放矢ノ中リニ褒美テ與ル。一雷銃ノ取扱ニ上達シタル兵卒テ賞シテコ  
レナ勵マシムル為ニ褒美ノ法則ヲ立ル。左ノ  
如シ。

二 褒美ノ種類左ノ如シ。

第一種ノ褒美 金糸ニテ縫タル小銃ノ十文  
字打違ト國王ノ冠ノ賞飾レルシノ賞飾ハ  
ドニ付ル。モノナリ一日ニ付キ別段ニ二ペンスノ手當  
ヲ與フ。文ニシテハ分四厘バカリニ當ル。右ハ

四中隊以上ノ兵ヲ合シタル一大隊ノ内ニテ放発ノ中リ最上ノ者ヘ與ル褒美ナリ但シ此褒美ハ屯所預備ノ兵隊ヘ與ルトナシ或ハ又常式ノ大隊ニテモ其内ノ分隊隊中ニ小銃例年ノ稽古ヲ欠テ一人立ノ放發ヲ為サルモノアルキハ褒美ヲ得ベカラズ

第二種ノ褒美 金糸ニテ縫タル小銃ノ十文字打違ノ賞飾ヲ許シ一日ニ付キ別段ニ一ペンスノ手當ヲ與フ右ハ一中隊ノ内ニテ中リノ上級ナル者へ與ル褒美ナリ但シ此中隊ノ

人數少ナクモ四十人ハ例年小銃ノ稽古ニ出席シテ一人立ノ放發ヲ為シ此人數ノ内ヨリ上級ノ者ヲ選テ褒美ヲ與ルナリ

第三種ノ褒美 毛糸ニテ縫タル小銃ノ十文字打違ノ賞飾ハ「マーケスマ」中リノ最上級小銃ノ術ニ達シテ中ニ與フ其人數ノ内或ハ一日ニ付キ別段ノ手當一ペンスヅ、ヲ與ルモノアリ但シ此手當ヲ受ル者ハ例年ノ稽古ニ於テ一人立ノ放發ヲ為シテ欠席セザワリシモノ、内ヨリ選テ懲人數十介ノ一ヨリ多カ

ル可ラズ又一大隊ノ内、テ百人ヨリ多カル

可ラズ

右第一種第二種第三種ノ賞飾ハ左ノ袖ニ附ルモノナリ

第四別種ノ褒美 金糸ニテ縫タル小銃ノ十  
文字打違ノ賞飾ノミヲ許シテ別段ノ手當ヲ  
バ與ヘザルモノアリ右ハ一大隊ノ内ニテ放  
數ノ巧ナルニ付キ上席ニ位シタル中隊ノ差  
圖役ニ與ル褒美ニシテ之ヲ右ノ袖ニ附ク其  
人ノ巧ナルニハ非ヲス組ノ者ノ上達但シコ  
スルニ付キ差圖役モ賞ヲ受ルナリ

ノ大隊ノ人數ハ四中隊ヨリ少ナカル可ラズ  
且其中隊ノ人數皆例年ノ稽古ニ出席シタル  
モノニ非ザレバ不可ナリ此褒美ヲ受ルニハ  
中隊ノ人數少ナクモ四十人ハ稽古ニ出席セ  
ザル可ラズ斯ノ如クシテ褒美ヲ與レバ人々  
皆雷銃ノ操法ニ巧ヲ競ヒ且其本人ハ賞ヲ得  
ザルモ銘々ノ勉強ニ由テ其隊中ノ差圖役ヘ  
面目ヲ得セシム可シトノ趣意ヲ了解ス可シ  
一大隊ノ内ニテ最上ノ中リト名ツクル者  
ハ第一等ノ組ニ居リ「インスールド」ノ雷銃ヲ以

テ二十點ヲ得ル軟又ハ「ウヰットウアルス」ノ雷銃ヲ  
以テ三十點ヲ取り第一等第二等ヲ合シテモ其  
内ノ高點ト為リ且遠近見斗ヒノ試験ニ於テ終  
ニ等級ヲカツキニモ上級タリシ者ナリ  
四 一中隊ノ内ニテ最上ノ中リト名ツクル者  
ハ其中隊ノ内ニテ第一等ノ組ニ居リ「インフー  
ルド」ノ雷銃ヲ以テ二十點ヲ得ル軟又ハ「ウヰット  
ウアルス」ノ雷銃ヲ以テ三十點ヲ取り第一等第二  
等ヲ合シテモ其内ノ高點ト為リ且遠近見斗ヒ  
ノ試験ニ於テ終ニ等級ヲ分ツキニモ上級タリ  
シ者ナリ  
五 大隊及ヒ中隊ノ内ニテ最上ノ中リヲ以テ  
褒美ヲ得タル者ハコレヲ用ヒテマーケスマエン  
ト為スイアリマートクスマエンハ兵隊ノ然ルキハ  
内ニ在テ別ニ職掌アリ又別ニマーケスマエンノ手當ヲ取ル可シ譬へハ  
大隊ノ内ニテ最上ノ中リタル者ハ第一種ノ褒  
美ト兼テ又第三種ノ褒美ヲ得ルナリ  
六 都テマーケスマエント為ス可キ者ハ第一等  
ノ組ニ居リ「インスールド」ノ雷銃ヲ以テ二十點  
ヲ得ル软又ハ「ウヰットウアルス」ノ雷銃ヲ以テ三十

點ヲ取り且又遠近見斗ヒノ試験ニ於テ終リニ  
等級ヲ分ケルニモ上級タリシモノニ非ザレハ  
不可ナリ但レマ「クスメント為ルニハ  
七「マーカスメン」ニハ定リノ貪數アレバコレ  
ニ別段ノ手當ヲ與ルニハ其人數ノ内ニテ上下  
ノ順序ヲ立テザル可ラズ即チ第一等第二等ノ  
組ヲ合シテ高点ノ者ニ三人モアルハ左ノ法ニ従  
テ若シ同點ノ者ニ三人モアルハ左ノ法ニ従  
ヒ次第ニヨレテ試ミテ高点ヲ得タル者ヘ別段  
ノ手當ヲ與フ可シ其法次ノ如シ

い 第一等ノ組ニテ放説ヲ試ミ同点ノ者ア  
レバ

ろ 第一期ノ放説ナ試ムコレニテモ尚同點  
ノ者アレバ  
は 遠近見斗ヒ第三期ノ業ヲ試ムコレニテ  
モ尚同點ノ者アレバ

く 遠近見斗ヒ第二期ノ業ヲ試ムコレニテ  
モ尚同點ノ者アレバ

ほ 遠近見斗ヒ第一期ノ業ヲ試ム

八 駒馬隊ノ兵卒ヘハ金ニテ二十五「シルリン

グ一「シル・リン・グ」ハノ褒美ヲ與ルアリ即チ第一期ニ於テ四十點以上ヲ得ル者ヲシテ巧拙ヲ競ハシメ其内ニテ高點ノ者ヘ與ルナリ但シ十人ノ内ニテコレヲ得ル者ハ唯一人ノ割合ニセリ此褒美ヘハ毛糸ニテ縫タル小銃ノ十文字打達ノ賞節ヲ添ヘ兵隊ノ區別ヲ論セズ點數ノ多キ者ナレハ何人ニテモコレヲ得ヘキナリ然レバ遠近見斗ヒノ業ニ於テ第一等タリシ者ニ非ザレバ不可ナリ○此試験ヲ為スニハ別段ニ上

官ヘ訴テ彈薬ヲ受取ル可シ

九 騎馬隊ノ兵卒ニテ中リノヨキ者ヘ褒美ヲ與ルノ割合左ノ如シ

四十點以上ヲ得テ褒金ヲ競フ人ノ数

褒金ノ高

褒金ヲ受ル人

一人乃至十人

一ポント五セルリング

一人

十一人乃至二十人

二ポント十セルリング

二人

二十一人乃至三十人

三ポント十五セルリング

三人

三十一人乃至四十人

五ポンント

四人

四十一人乃至五十人

六ポント五シルリング

五人

五十一人乃至六十人

七ポント十シルリング

六人

六十一人乃至七十人

八ポント十五シルリング

七人

七十一人乃至八十人

十ポント

八人

襄金ヲ競フモノ百人アルキハ其内ノ上級ノ  
者ヘハ別ニ又一「ポント」ノ金ヲ與フ即チ其上  
級トハ試業ノ代ニ三十弾ヲ放テ高點ナリシ  
モノナリ此兵士ヘハ襄金ノ外ニ金糸ニテ縫  
タル小鏡十文字ノ打違ト國王ノ冠ノ賞飾ヲ  
許ス

十 雷銃操法ノ學校ニ於テ教ヲ受ケ其業ニ上  
達スル者ハ中リノ上級ニ由テ襄美ヲ得ベシ但  
シ入校ノ前ニ毎年ノ試験ヘ出席シタル者ハ此  
例ニ非ス常式ノ稽古人ニテ學校ニ入ルイアレ  
ハ其次第ナ官ニ告ケ且學校中ニテ取行ヒシ試  
験ノ公報ハコレヲ大隊ノ長官ヘ差出スヲ法ト  
ス

十一 中リノ上級ナ以テ未タ襄美ヲ得ザル前  
ニ差圖役又ハ大鼓方ニ命ゼラレ或ハ雷銃ヲ携  
ヘザル隊伍ニ轉シ或ハ他ノ隊ニ入ルモ「マーケ

スメン」ヨリ外ノ職分テ勤ル氏ハ第三種ノ褒美

ヲ受ク可ラズ

十二 此中隊ヨリ彼ノ中隊ニ轉シ此大隊ヨリ  
彼ノ大隊ニ轉シ或ハ屯所預備隊ヨリ常備隊ニ  
轉シ常備隊ヨリ預備隊ニ轉シタル兵卒ハ轉隊  
ノ後モ其先勤ノ氏ニ得タル別段ノ手當ヲ失フ  
トナシ

十三 「マークスメント」為リテ別段ノ手當ヲ受  
ケシ者立身シテ差岡役又ハ大鼓方ト為リ或ハ  
死シ或ハ出奔シ或ハ軍役ヲ止メ或ハ雷銃ヲ携

ヘザル隊伍ニ轉シ或ハ他ノ隊ニ入ルモ「マーク  
スメント」ヨリ外ノ職分ヲ勤ル氏ハ別段ノ手當ヲ  
受ケザルガ故ニ其手當ヲハコレマデ別段ノ手  
當ナカリシ次席ノ「マークスメント」ニ與ルヲ法ト  
ス但シコノ線上ケノ次第ハ大隊ノ帳面ニ記シ  
且其手當ヲ受ル日限ハ先後ノ席ヲ空フセシ日  
ヨリ計ヘ始ルナリ

十四 一大隊又ハ一中隊ノ内ニテ中リノ上級  
ニ由リ褒美ヲ得タル者無勤ノ名目ニ加ハル氏  
ハ其褒美ヲ他ニ譲ルイナク本人ニテヨレヲ持

續ク可シ無勳トハ兵卒ノ名目ノミチ存シテ  
其給金ハ本人へ與ヘズレテ其隊ノ積金ノ如キモ  
モアニニ為シ或ハ割合ヲ以テ士官ニ分配スル  
モアリ

十五 中隊ノ放競ニ中リ多クシテ諸中隊ノ上  
席トナレバコレガ為其差圖後ハ第四別種ノ賞  
飾ヲ得ベシ既ニ此賞飾ヲ受ケ又其本人ノ放競  
モ巧ニシテ或ハ大隊ノ上級ト為リ或ハ中隊ノ  
上級ト為リ或ハ「マーカスマエン」ノ上級ト為ル代  
ハ別ニ又其中リノ賞飾ヲ受ク可シ但シ別種ノ  
賞飾ハ其中隊ヲ去ル代ニ棄サル可ラズ

十六 隊伍ノ放競ニ中リ多ケレハ其差圖後ニ  
モ褒美ヲ與ルトアリト金氏六百ヤールド」的  
場ニ於テハ一人立ノ放競ヲ三期共ニ行ハザレ  
バコレヲ許サズ且又大隊及ヒ中隊ノ上級タル  
者ハ唯一名ニ限り「マーカスマエン」ハ右ノ二名ヲ  
合シテ百人ニ限ル又賞飾ヲ許シ別段ノ手當ヲ  
與ルモ其翌年ノ試験ニ於テ前年ヨリモ中リ少  
ナケレバ兩様トモニコレヲ取上ルチ法トス又  
一大隊ニテ其中リノ点数ヲ平均シテ前年ノ中  
リヨリモ少ナケレハ大隊ノ賞飾ヲ盡ク取上ケ

別段ノ寺當ナモ與ル1ナレ又兵卒ニ罪アリテ  
押籠ノ罰ヲ受ケ稽古ニ出席セザル者ハコレヲ

欠席同様ニ見テ褒美ヲ與ル1ナレ

十七、勉テ實功ヲ奏セレガタメ功ナキ者ヘ金  
ヲ費ス1カランカタメ褒賞ニ偏頗ノ沙汰ナカ  
ランガタメ試験ノ帳面ト其表ハ放發ノ中リチ  
試ミタル即日ニ記レ謹テコレヲ納メ置キ命ノ  
下タルヲ待ツ可シ若シ其書類ニ字ヲ削テ書替  
ヘタル處アル歟又ハ其書替ヘタル文字ノ首一  
字ヲ士官ニテ記サルヒノアル歟或ハ其書類

ニ士官ノ調印ナキ歟或ハ其書類ヲ紛失スル1  
アル等不正不審ノ箇条露頭ニ及フキハ褒賞ノ  
沙汰モ止ム可シ

十八、的打又ハ遠近見斗ヒノ業ニ於テ跳躍ノ  
數ヲ計ヘ風ノ向テ考ヘテ的ノ置キ様ニ加減ヲ  
為シ、定リノ場所ヨリモ近キ處ニテ放發シ、遠近  
ニ従ヒ定リノ法ヨリモ的ノ數ヲ多クシ。定リノ  
法ヨリモ角星カクホシヲ大ニスル等不正ノ事ヲ為シテ  
規則ノ趣意ニ灰ル1アレバ盡ク其褒美ヲ取上  
グ可シ

十九 中隊ノ士官タル者打又ハ遠道見斗ヒ  
ノ試験ニ立合テ其職かヲ怠リ誤テ不相當ノ人  
ヘ中リノ褒美ヲ與ルトアレバ其士官ヲシテ間  
違ノ褒金ヲ償ハシムルヲ法トス

二十 大隊ノ内ノ諸隊伍ニハ一樣ニ褒美ノ數  
ヲ分配セリ譬へハ「マーカスマニ」百人ヲ常式ノ  
中隊ト預備ノ中隊トニ分配スルト左ノ如シ  
常式ノ中隊 十隊 「マーカスマニ」九十人  
預備ノ中隊 二隊 「マーカスマニ」十人 合テ百人  
二十一 中リノ上級ニ付キ預備隊ノ「マーカス

メニ」ヘ別段ノ手當ヲ與ルノ法ハ預備隊ノ種類  
ニ関ラズ預備一大隊ノ人数ニテ例年ノ試験ヲ  
行フタル者ノ惣人數百人ニ付キ十人ノ割合ニ  
シテ常式ノ兵一大隊ニ付キ其預備隊ニハ「マーカ  
クスマニ」十人ヨリ多カル可ラズ  
二十二 別段ノ手當及ヒ賞飾ヲ得タル者ハ其  
命ノ下リタル次季一年ヲ四年ニカナ初日ヨリ  
コレヲ受ケ一年ノ間持續ク可シ  
二十三 兵隊若シ戰争ノ地ニ出陣スル故又ハ  
他所ニ屯シテ的打ノ試験ヲ行フ可ラザルトア

レバ改テ試験ノ命ヲ受ルマデハ嘗テ受タル褒賞ヲ持続クベシ然レ氏常式ノ期限一年ヲ終リシ後二年ヨリ長カル可ラス但シ右ノ如ク期限ナ延バスニハ隊長ヨリ其次弟ヲ三通ノ書面ニ認メ譬ヘハ千八百何十何年ノ雷銃試業ハ何等ノ差支ニ由テ延引スルトノ趣ヲ記シ別ニ又褒賞ヲ持續ケントノ願書ヲ添ヘ惣隊長コレニ裏印シテ銃術ノ總督ニ出タレ副將軍ノキヲ經テ遂ニ大將軍ノ聞ニ達ス

二十四 中ワノ上級ニ付キ褒美ヲ願フノ書面

モ三通ニ認メ例年雷銃操法ノ公報ト共ニコレヲ銃術總督ニ呈シ總督ノ一覧ヲ經テ副將軍ニ白人軍務局ヨリ褒賞免許ノ命ヲ下タス氏ハ勢揃ノ時ニコレヲ本人へ申渡シ其姓名ヲ大隊ノ簿籍ニ記シテ公ニ布告ス  
二十五 中リノ上級ニ由テ得タル所ノ別段ノ手當ハ軍律ニ於テコレヲ取上ルト定式ノ給料ヲ取上ル箇条ニ同シ但シ出奔又ハ不身持ニ由テ軍律ノ仕置ヲ蒙リ或ハ他ノ罪ニ由テ英倫及アイルランド阿爾蘭ノ裁判所ニテ罰ヲ受ルトモ其翌年雷銃

ノ試業ニ出席シテ褒賞ヲ受ルニ妨ナレ  
二十六 兵卒ヲ勵マシテ雷銃ノ操法ニ巧ナラ  
シムルニハ其術ニ上達セル者ヘ政府ヨリ賞節  
ト別段ノ手當トチ與ヘテ既ニ十分ナレハ中隊  
ノ長官又ハ其他ノ士官ヨリ私ノ財ヲ散シテ士  
卒ヲ賞スルトハコレヲ禁セり但シ大軍或ハ大  
隊ニ於テ「ライフルコンテスト」トテ技術ヲ競ハ  
シムルトアリ此時ハ別段ノ趣意ナ以テ其場所  
ノ總督ヨリ免許ヲ受ケ長官ノ私財ヲ散スルモ  
妨ナシ

## 第八篇

雷銃ノ的場ヲ選ヒ之ヲ鑑定スル事

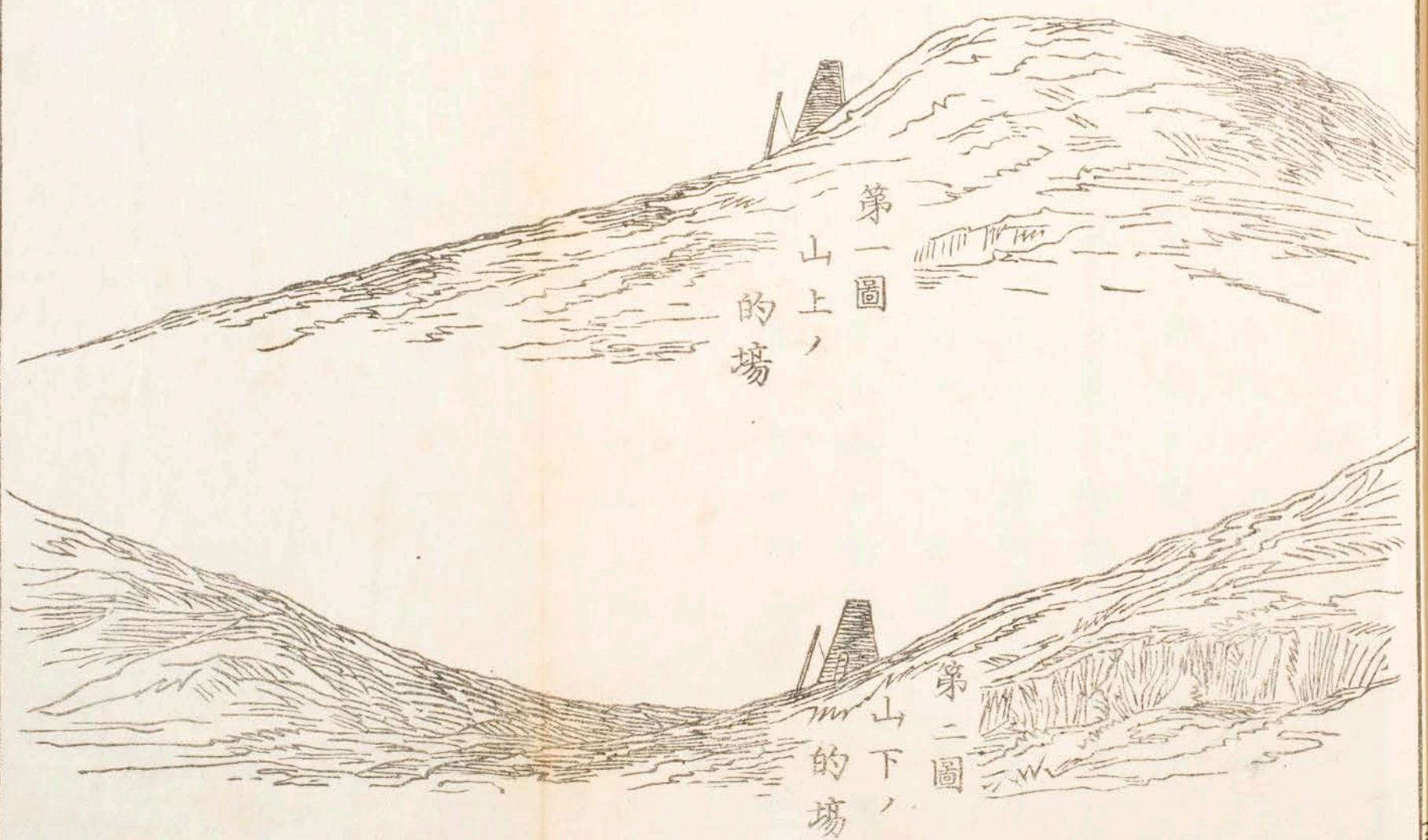
一 雷銃ノ的場ヲ定ルニハ諸人ノ怪我ナキヤ  
ウ稽古ノ便利ナルヤウ雜費ノ少ナキヤウコレ  
ヲ選フハ甚ク難シ固ヨリ其土地ノ形勢ニ由テ  
一定ノ法ヲ立テ難シトキ左ノ条々ヲ以テ通  
常ノ心得トス

二 少ナクセ三百ヤードノ彈道ヲ取り准キ  
地ハ雷銃試験ノ的場ト為ス可ラズ  
三 的場ヲ定ルニハ其的ノ後ノ地ヲ見通シテ

危カラザル場所ナル可ラズ見廻リノ人ハ此  
場所ニ伏シテ諸件ニ注意シ事アレバ放火ヲ留  
メンガタメナリ故ニ山ノ上ノ的場ヨリモ山ノ  
下ノ的場ヲ准トス第二十七葉第一圖第二圖ヲ  
見ル可シ山下ノ的場ナレヘ的ノ後ノ地必シ  
高クシテヨクコレヲ見ル可シ



第二十七葉



危カラサル場所ナル可ラバ見廻リノ人ハ此  
場所ニ伏シテ諸件ニ注意シ事アレバ放火ヲ留  
メンガタノナリ故ニ山ノ上ノ的場ヨリモ山ノ  
下ノ的場ヲ准トス第二十七葉第一圖第二圖ヲ  
見ル可シ山下ノ的場ナレハ的ノ後ノ地必  
高クシテヨリコレラ見ル可シ

四 的場ハ二筋相并ヘテ設クベシ然ル氏ハ其  
的人間十「ヤールド」ヨリ狹カル可ラズコレヲ的  
ノ一對トス其一對ノ両方ニ四十「ヤールド」ツ、  
ノ空地ヲ設ルガ故ニ二筋ノ的場ヲ立ルニハ其  
幅狭久モ九十「ヤールド」タル可シ第三十葉第一  
圖ノ如シ

五 同シ土地ニ二筋セ三筋ミ的場ヲ設ル氏ハ  
二筋ヲ一對トシ此一對ノ中心ヨリ彼ノ一對ノ  
中心マデ九十「ヤールド」ノ空地ヲ取り其両方ニ  
又四十「ヤールド」ツ、ノ空地ヲ設ルト第三十葉

第二圖ノ如クシテ兩對互ニ相混雜スルヲ防ク  
可シ。稽古ノ人教甚タ多クシテ的場ト為ス可キ  
土地ノ幅較ケレハ的場ノ間ヲ十「ヤールド」  
隔テ、三筋セ四筋モ相矣。ヘ其西方ニ四十「ヤー  
ルド」ツノ空地ヲ設ル。第三十葉第三圖ノ如  
クスベシ。

七、一的場ノ筋平行ニ相矣。代ハ的ノ後ノ方ニ  
テハ其西方ノ空地四十「ヤールド」ヨリ次第ニ增  
シテ八十「ヤールド」ニ至ル可シ的場ノ筋平行十

ラズシテ的ノ方へ向テ次第ニ狹クナル所ハ其  
狹クナル所ノ多少ニ従テ空地ノ幅ニモ多少ア  
ルベシ。第三十葉第四圖ノ如シ但シ的場ノ筋ハ  
平行ナルモ或ハ次第ニ狹クナルモ的ノ處ニ於  
テハ的ト的トノ間ハ必ス十「ヤールド」ヨリ少ナ  
カル可ラス的トノ此一對十彼ノ一對トノ間ハ八  
十「ヤールド」ヨリ少ナカル可ラズ。對ト空地十  
八、的ノ後ノ地ハ平地ニテ九千五百「ヤールド」  
ナカル可ラス然レ氏後ノ方ニ絶壁ノ山アレバ  
千五百「ヤールド」ノ長サナキモ可ナリ都テ的場

テ選ア氏ニハ仮令上差支アルモ的ノ後マテ玉  
ノ達スルモノト定メザル可ラズ  
九 的ノ後ノ土堤ハ土地ノ形狀ニ從テ其高サ  
チ定ム可シ平面ノ土地ニテ的ノ後ノ空地千五  
百「ヤールド」ヨリ少ナケレバ土堤ノ高サナ四十  
五「フト」乃至五十「フト」ニ築立ツベシ的ノ後  
ニ空地多ケレバ七堤ノ高サニ十「フト」ニ足  
ルベシ或ハ海ノ方ニ向テ放費スル代ハ十二「フト」  
ノ高サニテ十カナリ  
十 或ハ又土地ノ形狀ニ由リ天然ノ土堤ヲ得  
ルトアリ但シ流彈ヲ留ルニハ其山ノ勾配四十  
五度ヨリ緩ナル可ラバ若シコレヨリモ緩ナル  
キハ却テコレニ激シ其玉ヲ跳躍セシメテ大ニ  
害ヲ為ス一アリ  
十一 一對ノ的ニ用ル土堤ノ長サハ其頂ノ處  
ニテ四十五「フト」ヨリ短クス可ラズ  
十二 土堤ノ前ニハ四方十六「フト」厚サ九イ  
レナル石又ハ鍛ノ板ヲ敷テ臺ト為シ其上ニ  
的ニ立テ的ノ位置ト彈道ノ筋トヲ直角ナラシ  
ム可シ

十三 的場ノ遠近ハ土工方ノ士官ニテ精密ニ  
測量シ的ヲ去ル一百「ヤールド」ノ處ヨリ始メ五  
十「ヤールド」ツニ區別シ九百「ヤールド」ニ至ル  
可シ

八十九尺  
八十九尺  
八十九尺  
八十九尺

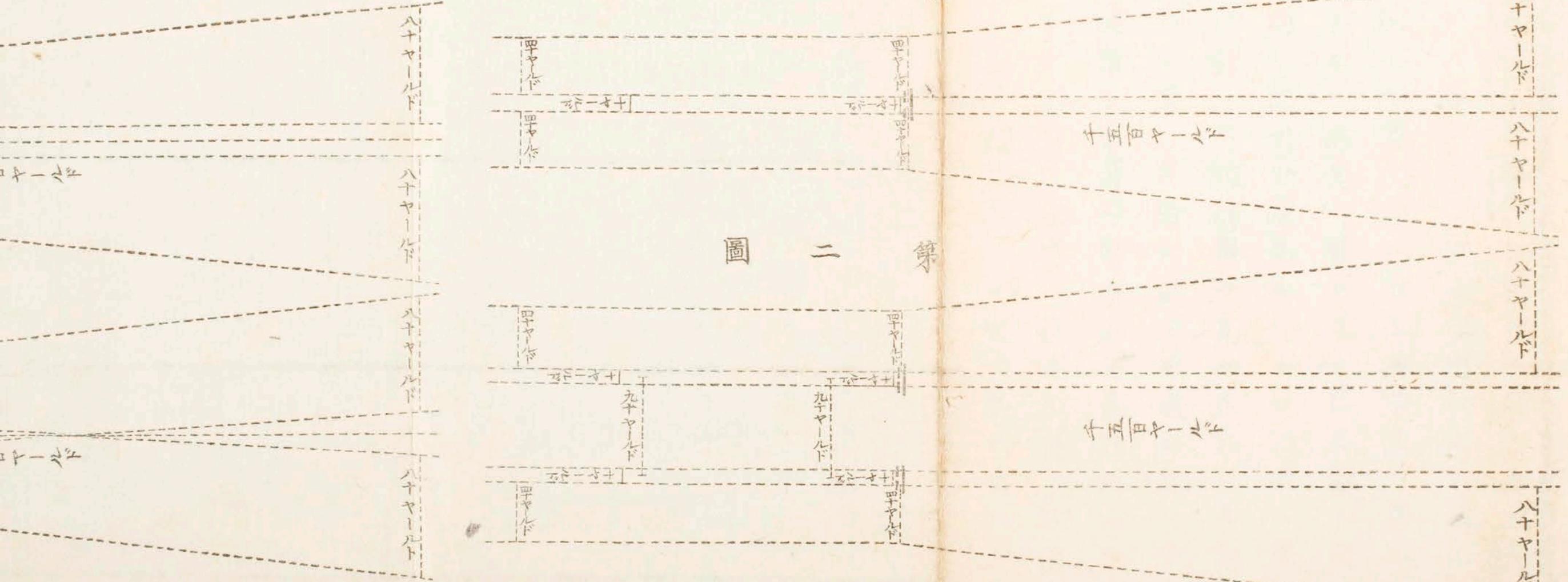
葉

十

三

第

圖一 第



八ヤード

八ヤード

八ヤード

八ヤード

三十

第

第

第

一

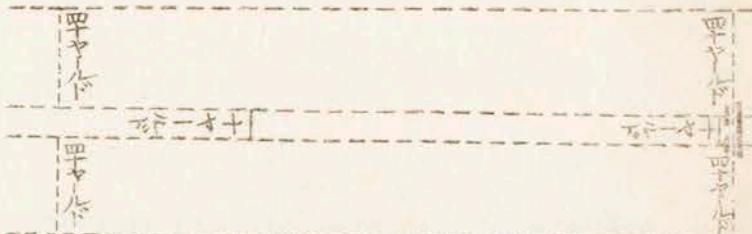
圖

三

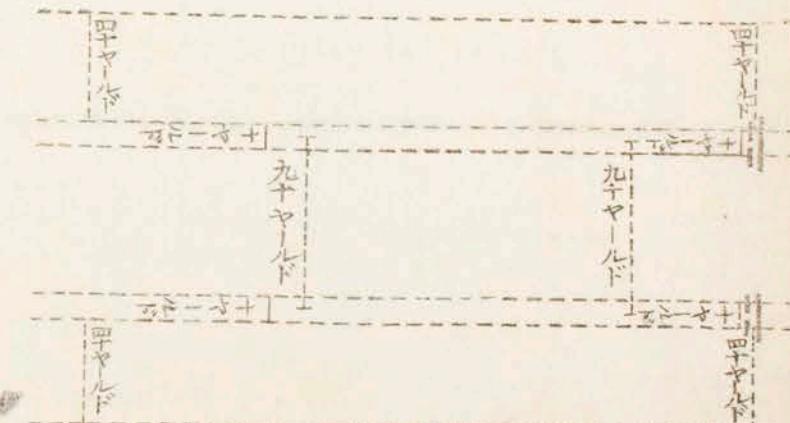
十

葉

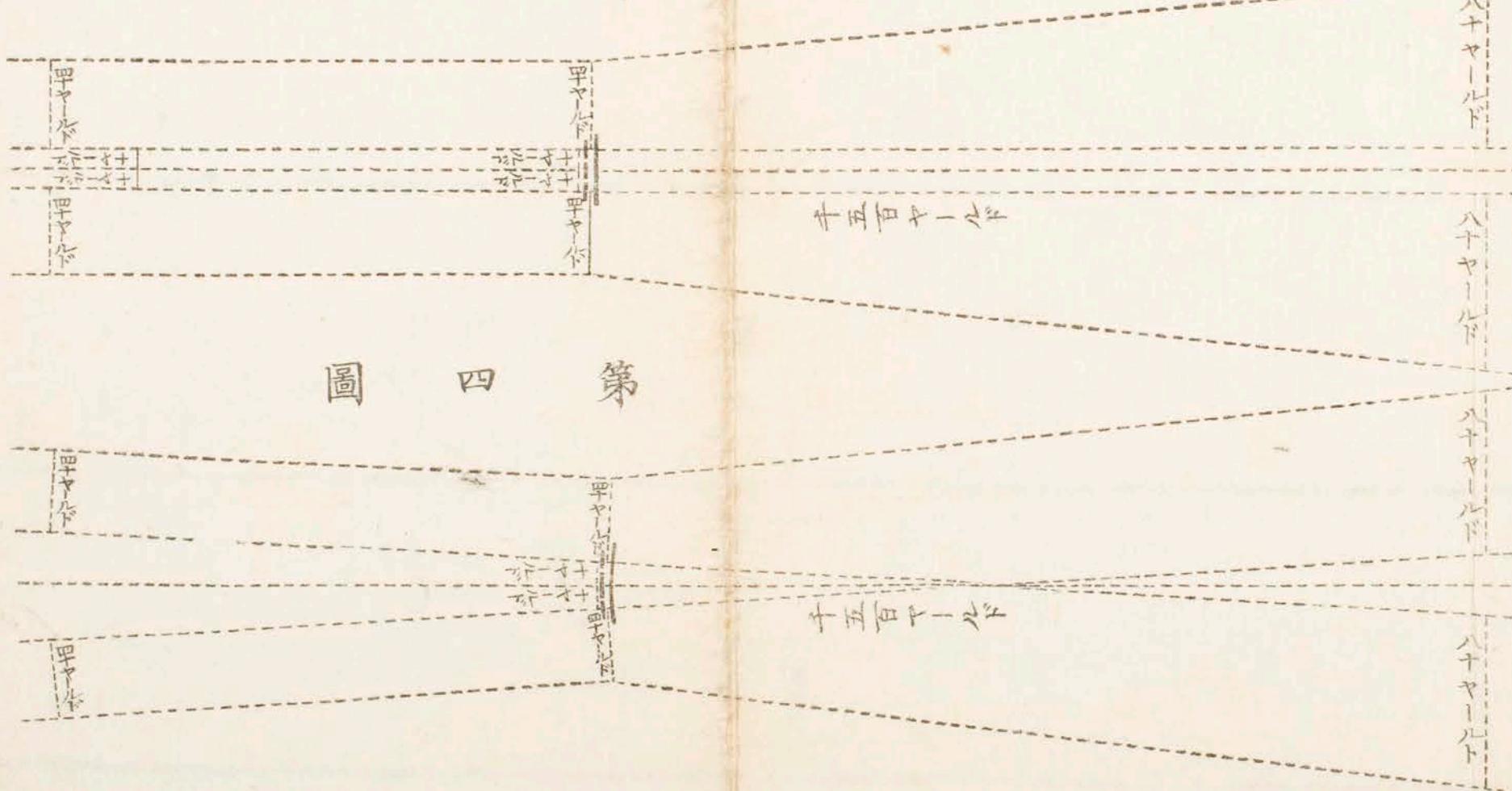
圖三第



圖二第



圖四第



十五百一十八

十五百一十八

## 第三圖

## 第三圖

## 第四圖

## 第四圖

十四 地形ニ不都合ナケレバ的ノ臺ヲ去ルト  
 ハ止ノ處ニ於テ臺ノ正面ニ穴ヲ掘リ玉見  
 者ノ伏スル處ト為スヘシ其寸尺ハ第三十二  
 葉ノ圖ノ如シ玉見ノ者ハ穴ノ内ノ棚ニ腰掛ケ  
 窓ヨリ的ノ全面ヲ窺見ルヘシコノ式ニ從テ玉  
 見ノ穴ヲ設レバ跳躍彈ヲ見ルタメニモ別段ニ  
 宛ヲ掘ルニ及ハズ的ノ前ニテ近ク玉ノ中リナ  
 見ケ跳躍ト尋常ノ中リトヲ區別スル1甚タ  
 容易ナリ若シコノ法式ニ從テ玉見ノ穴ヲ作り  
 触ハザル氏ハ別ニ又コノ穴ヲ去ルト八十ヤ十

ルドノ處ニ土ノ小屋ヲ作テ二人ヲ入レ跳躍弾  
ヲ見セシムベシ  
十五 前条ノ式ニ従テ玉見ノ穴ヲ作レハ玉ノ  
中リヲ相圖スルニ旗ヲ用ヒズシテ圓キ板ヲ用  
ユ板ノ棒ハ平タクシテ穴ノ横木ニ平ニ當テ、  
板ノ位置ヲ誤ラザルヤウニセリ

十六 土地ノ形狀ニ由リ右ノ如ク玉見ノ穴ヲ  
掘ルニ八費多ケレバ陣屋奉行ニ訴テ鐵障ヲ受  
取ルベシ此鐵障ハ的ノ臺ヲ去ル一十五ヤール  
ドノ處ニ於テ臺ノ脇ニ置キ玉見ノ者ノ屢擦ト

為ス又コノ鐵障ノ手前八十ヤールドノ處ヘ別  
ニ一個ノ鐵障ヲ置テ跳躍弾ヲ見ル處ト為ス  
十七 的ヲ置クタメニ土堤ヲ築キ穴ヲ掘リ又  
ハ土地ノ凸凹ヲ平均スル等都テ的打ノ試験ニ  
付テノ力後ハ老兵ノ職少ナリ但シ土工方ヨリ  
受取タル尋常ノ道具ニテ成ス可キ事ニハ老兵  
ヲ使役スルナレ凡非常ノ土功ニ至テハ此例ニ  
非ラズ

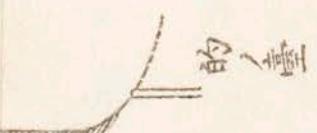
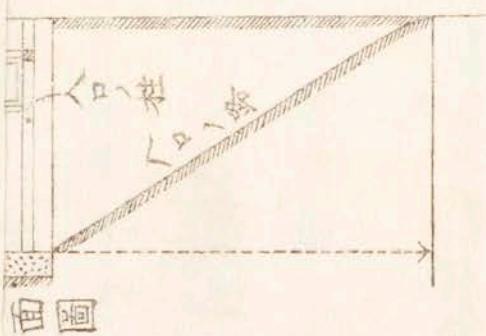
十八 的場、土堤、玉見ノ穴等ヲ修覆スルモ老兵  
ノ職少ナリ兵隊若シコレマデノ場所ヲ去テ他

電ニ轉移スルキハ必ス其附屬ノ的場ヲ十分ニ  
終覆シテ去ルベシ若シ然ラズシテ破損スルト  
アレバ其兵隊ノ罪トス

左ノ圖ニ記セル數字ハ「一」ト「二」ト「三」  
「四」ナリ譬へハ十八十「一」ト「二」ナリニハ二「一」  
ト「十」或ハ二六ト記シタルヘニ「一」ト「六」イ  
ンナリ圖面小ナルが故ニ唯其數字ノミヲ  
記シタレ氏固ヨリ真形ノ縮図ナレバ其長サ  
チ量リテモ大略チ知ルベシ

## 第

## 地平圖



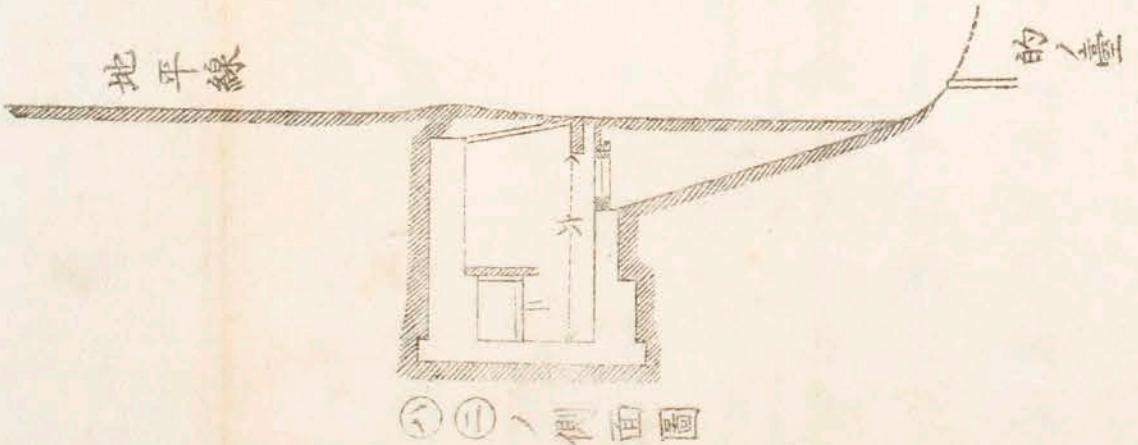
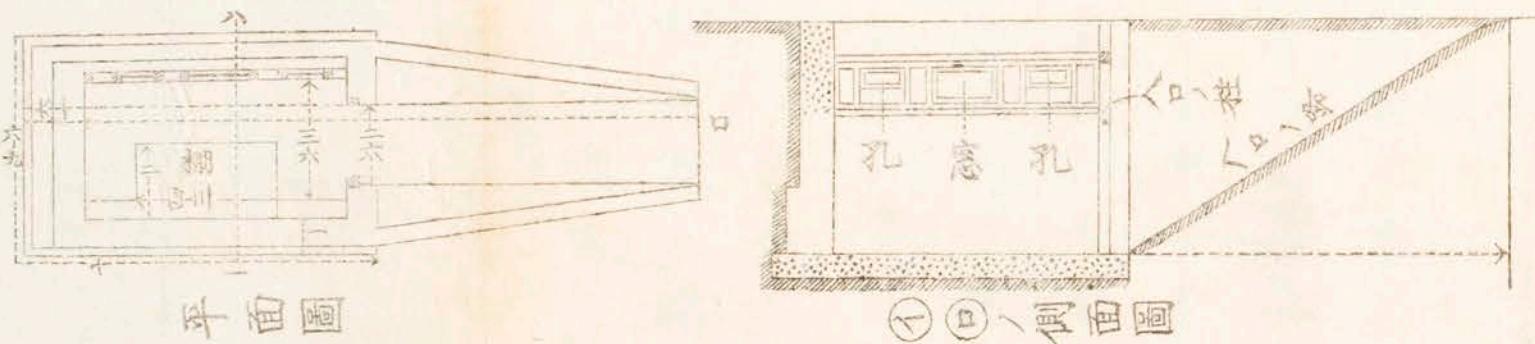
電ニ轉移スルキハ必ス其附屬ノ的場ヲ十分ニ

修覆シテ去ルベシ若シ然ラズシテ破損スルト

アレバ其兵隊ノ罪トス

左ノ圖ニ記セル數字ハ「一」ト「二」ト「三」ト「四」  
「五」ナリ譬へハ十八十「一」ト「二」ナリニハ二「一」  
ト「十」或ハ二六ト記シタルヘニ「一」ト「六」イ  
ンナリ圖面小ナルが故ニ唯其數字ノミヲ  
記シタレ氏固ヨリ真形ノ縮図ナレバ其長サ  
チ量リテモ大略チ知ルベシ

# 葉二十三第



第九篇

小銃試験ノ事

一 小銃弾丸、火薬ノ善惡ヲ見ルニハ數個ノ玉ヲ放幾シテ其中リノ一處ニ集ルト散ズルトノ差ヲ試ミ其差ノ大小ニ由テコレヲ定ムヨノ差ヲ名ヅケテ平均ノ外レト云フ

二 前条所記ノ平均ノ外レヲ定ルノ法左ノ如シ

第一 的ノ左ノ端ヨリ玉ノ中リノ中心マテノ距リヲ一個ウヽ量リコレヲ左右ノ距離

第二 的ノ下ノ端ヨリ玉ノ中リノ中心マテ  
ノ距リヲ一個ツク、量リテコレヲ上下ノ距離  
ト名ツク

第三 左右ノ距離ヲ集メ又上下ノ距離ヲ集  
メ兩様ノ距離ヲ合シテ其数即ナリテ設ケ中  
リタル玉ノ数ヲ以テ除スレハ左右平均ノ距  
離ト上下平均ノ距離トヲ得ベシ亦コレニ由  
テ平均線ノ切点ヲモ知ル可シ左右平均ノ距  
ニ直線ナ引キ上下平均ノ距離ノントシテ上  
直線ヲ引キ兩線ノ十文字ニ為リタル處ヲ切

点ト  
フナリ

第四 左右上下平均線ノ切点ヲ記シコノ點

ヨリ玉ノ中リノ中心マデノ距離ヲ量リテユ  
レヲ真ノ差ト名ツク但シ外レタル玉ノ差ハ  
仮ニ的ノ半径ト定ム

第五 真ノ差ヲ集メ其数ヲ玉ノ数ニテ除ス

レハ平均ノ外レノ数ヲ得ベシ

三 平均線ノ切点ト粗ニノ點トノ間ニ差アレ  
ハ此差ハ風ノ所為ト粗ヒ方ノ正シカラザルト  
ニ由テ然ルモノトス

四

申分

マカシズ

アリト思ヘル小銃ヲ試ルニハ必ス左

ノ条々ニ記ス所ノ手數ヲ盡ス可シ

第一 其筒ヲヨク吟味レ道具掛ノ差図役ヲ  
シテユレナ掃除セシメ或ハ不都合ナレハ物  
事ニ丁寧ナル兵卒ヘコレヲ命ズ可シ

第二 一大隊ノ内ヨリ放發ノ最モ巧者ナル  
モノ一人ヲ選テ試験ノ業ヲ命ズ

第三 謹慎シテ火薬ノ目方ヲ量リ玉ノ良否  
ヲモヨク吟味ス可シ

第四 小銃ノ臺尻ヲ肩ニ當テ筒先キハ食持

等ノ如キ臺ノ上ニモタラシテ放發ス可シ

第五

申分

マカシズ

アリト思ヘル小銃ヲ試ルニ五百

ヤールドノ的ニ放發シテ平均ノ外レ三フ  
止以上ナレバ此筒ハ癮物トシテ棄ツ可シ又  
ニ三ノ筒ノ良否ヲ比較シ或ハ彈薬ノ善惡ヲ  
試ントスルニハ的ノ遠近テ三處ニ変レ三度  
ビ放發ゼザル可ラズ

第六 六百ヤールドヨリ近キ處ニ放發スル  
ニハ的ノ大サ中大アート長サハアートナル  
モノヲ用ユ可シ

第七 狙ニノ勾配ノ高サテ正シテ的ノ星ノ位  
置ヲ定ルタメ試弾トシテ數個ノ玉ヲ放發ス  
可シ

第八 命中表ハ十發以上二十發以下ノ試験  
ヲ記スモノナリ但シ其狙フ所ハ試發ニテ定  
メタル星ナリ

第九 的ノ命中リラ見テコレヲ命中表ニ寫ス  
ニハヨク謹慎ヲ加ヘテ其位置ヲ誤ルト勿カ  
ル可シ放發シタル玉ノ數ハ試發ヲ除キ他ハ  
一二三ノ順番ヲ以テ計ヘ命中リノ數ヲ圖ニ記

スニモ其順ニ從ヒ的ヲ外レタル玉ハ命中表  
ニ外レト記ス可シ

第十 命中表ニハ放發者ノ姓名放發ノ遠近  
小銃彈薬ノ品類火薬ノ量目玉ノ量目風ノ方  
向寒暖計晴雨署ノ高下ヲ記シ或ハ彈薬ノ損  
シタルニ由テ玉込ノ難タカリシ有様等都テ  
命中ニ故障ト為ル可キ箇条ハ盡ク記スペシ

試験ノ命中表

何年何月何レノ地ニ於テ

寒暖計 八十二度半

晴雨器 三十インチ零三七

天氣快晴

放發者 マーケスメン 何某

距離 五百ヤールド

放發ノ數 十發

試験ノ趣意 雷銃ノ試験ナリ

雷銃ノ種類 長キインチ一ルニテロ徑零イ

ンチ五分七厘七毛

火薬ノ量目 ニダラム半一

厘ニダラムハ我四分七  
モラムハ我四分七

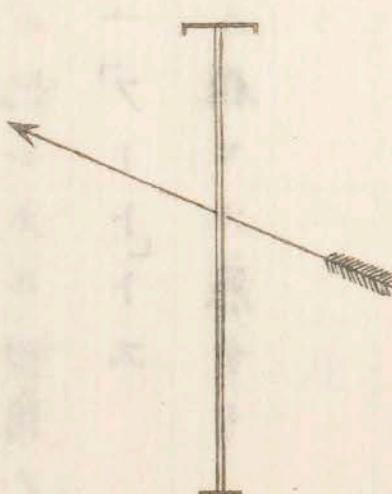
玉ノ量目 五百三十ゲレイン

一厘七毛イハ我九我  
ルニ当ル

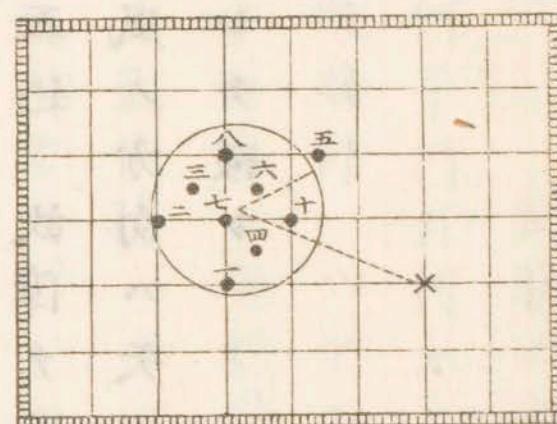
玉込 故障ナシ

風ノ方向ハ矢ノ如ク

シテ強シ



放設ノ順番		的ノ下ノ端ト左ノ端ヨリ量リ	平均線ノ切 点ヨリ量リ
第一	三フート	左右ノ距離	上下ノ距離
	二フート		
	一フート二分		シ真ノ差



上ノ圖ニ記シタル四角ノ一個

# 本懸版

慶應義塾藏版

明治二年己巳十二月  
官許

雷銃操法卷之三大尾

平均	三フート二分二厘	三フート一分六厘	一フート二分七厘
粗ヒノ點	六フート	ニフート	三フート零一厘

福

3-1

著作